

式 辞

73期生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。3年間の学業を終え、本校を巣立っていくみなさんに、教職員を代表して心からお祝いを述べたいと思います。

新型コロナウイルス感染症 拡大防止の新しい生活様式のなか、どうなることかと心配していましたが、こうして一人ひとりに卒業証書を手渡しすることができ、とても喜ばしく思っています。

担任の先生の声にこたえる心のこもった返事と、凛とした立ち姿は本当に立派でした。今、壇上から見えるみなさんの輝く眼差しに、これから自分の自分に期待し、夢や希望に向かって頑張るぞという決意が感じとれます。

私は2年前にこの長吉中学校に赴任しましたので、みなさんとは2年間共に過ごすご縁をいただきました。2年生、3年生と着実に成長していくみなさんの姿を、様々な場面で見ることは、日々楽しみであり、喜びであり、大きな学びでもありました。特に3年生になってからは、修学旅行、スポーツ大会、文化発表会などの行事はもとより、日常の自主的な挨拶運動や、地域と連携したクリーンアップ活動など、コロナ下の状況で工夫しながら現在の生徒活動の土台を強固にしてくれた学年であったと、心から感謝しています。

そんなみなさんに、今日は最後の授業を行います。一番伝えたいことは、「自分磨きを怠るな」ということです。

中学校生活3年間の中で、みなさんは一人ひとり間違いなく自分を磨いてきました。しかしながら、まだまだ磨ける可能性に、満ち溢れた原石だと思っています。義務教育を終え、それぞれが別々の道を歩み始めようとする今、今後どのように自分を磨き輝かせていくかは、まさに自分次第です。

夢をつかむため、目標を達成するために、まずはあきらめずに懸命にぶつかってみてください。たとえそれでつまずいたり跳ね返されたりしても、何もせずに諦めるよりは、後悔は少ないはずです。努力しても叶わなかつたり、失敗に終わったりすることはもちろんありますが、以前全校集会で話したように、スラムダンクの安西コーチの言葉「諦めたらそこで試合終了だよ」を思い出してください。何よりも、努力や行動せずして成功はないということ、言い換えれば、成功したものは皆あきらめずに努力を続けてきたという真実があることを、知つておいてほしいと思います。

また、みなさんのこれから歩んでいく道には、新たな出会いもたくさん待ち受けています。厳しい人、優しい人、冷静な人、熱い人、そしてあなたに敵対する人、共感してくれる人、叱ってくれる人など、いろいろな人との出会いがあることでしょう。そのなかで、自分にとつて都合のよいことを言う人ばかりに囲まれている時より、逆に自分に對して耳の痛いことを言ってくれる人や注意してくれる人がいる時こそ、自分を成長させるチャンスだと考えてほしいのです。自分の受け止め方ひとつで、どんな人との出会いにも、どんな人の言葉にも自分を磨けるヒントがあるはずです。

これからも、人との出会いを大切にしてつながっていくことを恐れずに、そして感謝の心

を忘れずに、自分の可能性を信じて、未来を切り拓いていってくれることを心から願っています。

最後になりましたが、保護者のみなさま、本日はお子さまのご卒業おめでとうございます。これまでのご苦労に敬意を表しますとともに、心からお祝い申しあげます。子どもたちはこれからますます成長し、自立していくことと思いますが、今までどおり、手を離しても目を離すことなく、目を離しても心離すことなく、いつまでも深い愛情で見守っていただきたいと思います。

それでは卒業生のみなさん、

『夢をかなえた人は	自分を信じ続けた人』
『運がいい人は	失敗から何度も立ち上った人』
『好かれる人は	いつも思いやりを忘れなかった人』
『愛される人は	心から愛し続けた人』
『幸せな人は	当たり前に感謝し続けた人』
どんな時でも、どんなことが起きても、	
「続けた人」に明るい未来はやってくる	

という言葉を贈り、みなさんのこれから的人生が幸せなものとなりますよう願いつつ式辞といたします。

令和3年3月12日
大阪市立長吉中学校長 浅埜高司